

### 東大寺で新春セミナー

奈良県代協 古都ならではの催し

奈良県代協(平尾武士会長)は1月23日、奈良市の東大寺で新春セミナー「および賀詞交換会を開催した。

まず東大寺小ホールで、第二二世東大寺別当筒井寛昭管長が「東大寺の建立と復興」と題して講演を行った。冒頭、

平尾会長が挨拶に立ち、保険業法の改正に触れ、「保険募集のルールを抜本的に変えるもので、代

の繋がり、法要の持続、再建・修理という要素に分けて説明した。「東大寺は、これらの要素それぞれが絡み合うことで存続してきています。一つでも欠けると続かないかもしれない。お寺も、社会との繋がり、

経済的なもの、人々の考え方や思いなどを先取りして、それに対処してきたから、1200年以上の歴史があるのだということを知ってほしいと思います」と話した。講和の後、参加者一同で東大寺ミュージアムを訪れ、国宝を含む寺宝数十点を見学、歴史の重みに触れた。

続いて僧侶の案内付きで大仏殿を特別参拝し、建立当時から残る台座部分に上り、蓮弁の表面に線刻された釈迦如来像が中心とした図様について

の解説を聞くなど、貴重な体験を得た。そこから、境内のなかでもかなり高所に建てられた二月堂に移動し、境内はじめ奈良の町が一望できる回廊部分から、その見事な眺めを堪能。ここでは暗くなるのを待ち、春日大社神苑萬葉植物園で開催されている「イルミネーション」のイルミネーションも楽しんだ。午後6時前、古都ならではの新春セミナーを終了。場所を移して懇親会が行われ、会員一同、親睦を深めた。



挨拶する平尾会長